



世界に一つのグリーンマップをつくりました!!!

2015年5月24日 日曜日、長久手市内に暮らす子どもたちと愛知淑徳大学の学生がグリーンマップづくりを行いました。

たいよう、てんとうむし、あおむし、かたつむり、クローバー、みつばちの6つのグループに分かれて、リニモ沿線を歩きながら調べました。



グリーンマップはESDの取り組みです

グリーンマップづくりは、地域社会の様々な課題を自らの問題として捉えながら、身近に取り組むことのできる活動の一つです。グリーンマップづくりを通じて、地域が抱える課題を知ったり、その解決につながる行動のきっかけになったりすることは、持続可能な社会を創造するESDの基本的な考え方と、まさに同じであるといえるでしょう。ESDは、Education for Sustainable Developmentの略です。

このグリーンマップを作った仲間たち



ながくて えんせん 長久手・リニモ沿線グリーンマップ 2015年5月・街の宝物を探そう			
企画・運営 愛知淑徳大学文学部教育学科小島ゼミ生			
●勝野和希子	●清水 愛菜	●杉浦 紗央	
●原田真由美	●深澤 亮平	●保浦 友成	
●伊藤 歌那	●大石 彩	●倉内 悠里	
●濱中 啓太	●稗田 将志	●丸中 美来	
●三木麻由香	●水谷 奈々	●矢野 春菜	
●山田 裕哉	●横山 陽一	●後藤 彩乃	
グリーンマップメーカー 小島 祥美 (愛知淑徳大学文学部教育学科/CCC)			
協力 愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター	Community Collaboration enter 4		
協行 長久手市 くらし文化部 環境課	発行日 2015年7月		



「グリーンマップ」ってなあに？

グリーンマップとは、自分たちが暮らす街の中で、景色のきれいな場所、色々な生き物に出会える場所などを調べて、アイコン(絵文字)を使って環境マップを作る活動のことです。

グリーンマップは、1992年にニューヨークの環境デザイナーのウェンディ・ブラウアーさんによって提唱され、世界で約50カ国、600以上の地域の人がグリーンマップ作りに参加しています。

長久手市のグリーンマップ

2009年度から2011年度の3年間、毎年2校ずつ、市内の6小学校区の通学路のグリーンマップ作りを長久手市と愛知淑徳大学と協力し、協働事業で実施しました。

小学生と大学生とが一緒になってグループに分かれ、小学校区の通学路を歩きながら、街の自然や環境について調べ、グループごとに調べた地図を合わせ小学校区のグリーンマップを作りました。

2012年度から2014年度は、市の中心部を流れる香流川の流域を調べました。



